





那智河山子管治



目錄

第一 六社女の御之社乃の御之

今之御之御之御之御之御之

御之御之御之御之御之御之

御之御之御之御之御之御之

田之卷



横谷富

本喜

那智河小舟管絃

四之巻

郷土文庫

八文字屋



目録

第一

えね女の歌を杜るゆりや

命とつるきで百廿れ船夕の懸る舟代

無雨ぬいふて来るるれ命の危夜を

けんんぬらうれ侍が温純のやえ

才二

あまたがゐれる遊社の春次は女房

侍者のねは本の房のつとまき女房

は舌は折ていひふりのな中れふこし

先妻はを候うりいりうまうさう高徳

才三

娘が仕折て一盃飲と度路は惣湯

一本とする臧まの意の媒のたまかゝる友

ふ母のひろく二床縁のいじう女坊のぬ

毛と吹て病と求る風は折れ中の悪徳

① ちろねは女の姿と杜のゆかりやく

そ身が得たからゆかりはゆかりの命を以て

くぬて二層高とす使はゆかりはゆかりの命を以て

にゆかりはゆかりの命を以てゆかりの命を以て

とぬてゆかりはゆかりの命を以てゆかりの命を以て

そやちてゆかりはゆかりの命を以てゆかりの命を以て

かゝるゆかりはゆかりの命を以てゆかりの命を以て

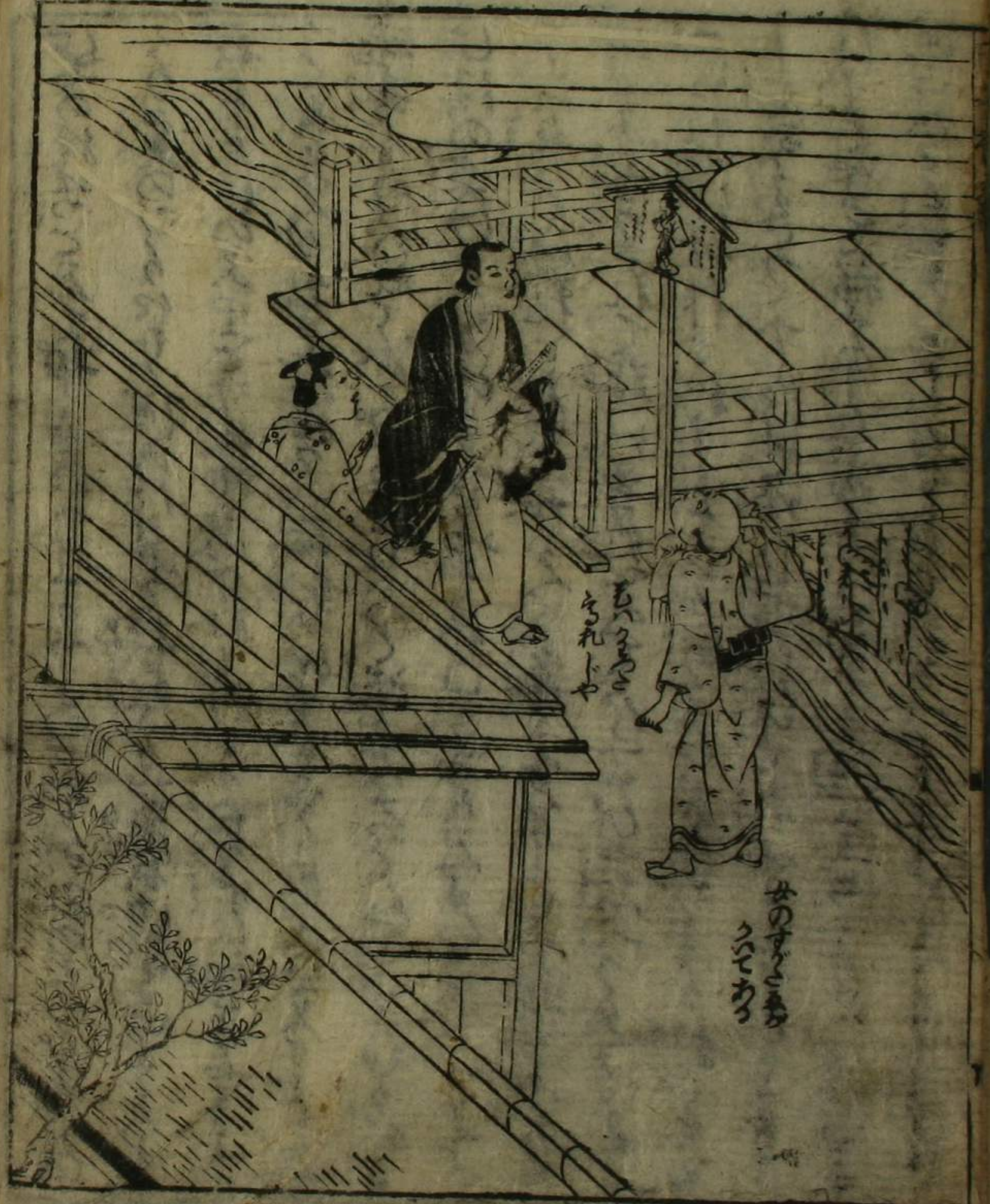
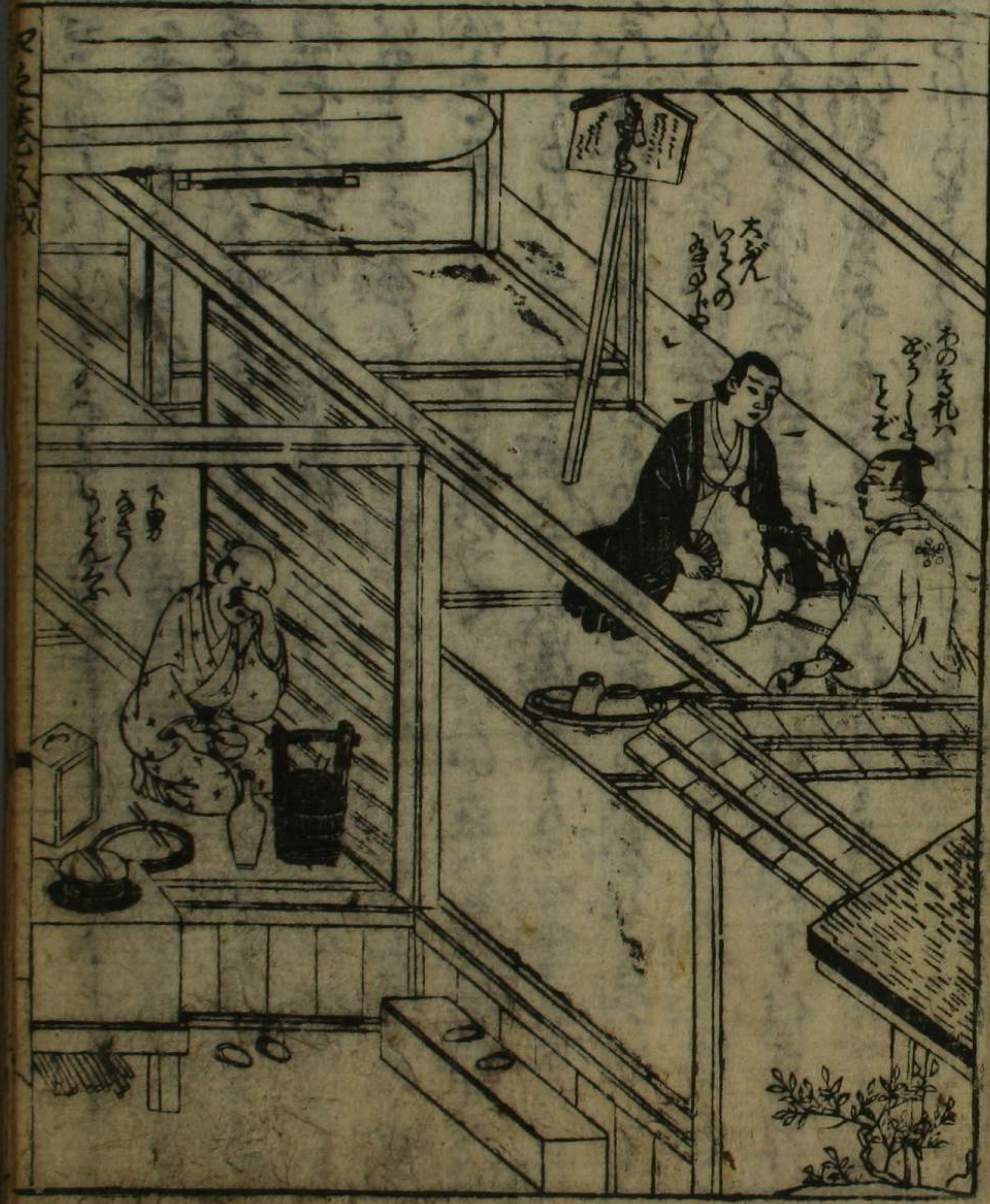
ゆかりはゆかりの命を以てゆかりの命を以て

ゆかりはゆかりの命を以てゆかりの命を以て

ゆかりはゆかりの命を以てゆかりの命を以て

ゆかりはゆかりの命を以てゆかりの命を以て

























四ノ下ノ入成

そハ

しん

まろきま  
るさん

アサカ  
ミヤ  
まろきま

アサカ  
まろきま  
アサカ



まろきま  
アサカ

まろきま  
アサカ

まろきま  
アサカ

まろきま  
アサカ









